

1 科目名「原価計算」

履修学年：3年（商業情報系列 8名）

単位数：3単位

2 授業概要

授業公開は、「総合原価計算の月末仕掛品原価の計算」で実施した。総合原価計算の単元に入って1時間目である。授業時の始めに、導入となる内容の説明と評価の観点について必ず確認するようにしている。今回、授業公開を行ったクラスは8名の少人数クラスということもあり、普段の授業でも目の行き届く人数ではあったがそれでも生徒が活発に活動できる授業展開を考えてグループ学習が効果的であると感じている。最初、単元のポイントをおさえる説明を15分程度行い、残りは生徒同士で考え、教え合う時間の確保を行う。本時の目標を「月末仕掛品原価の計算ができるようになる」としており、「平均法」や「先入先出法」の計算方法や「素材が製造着手のときにすべて投入される場合」や「素材が製造の進行に応じて投入される場合」の違いに気づかせ、生徒同士が協力しながら問題解決をしていくことを目標としている。生徒は単元が変わると全く別なものとして理解しようとしてしまいがちだが、既に学習している内容と関連づける指導を行うことで、生徒が前時に振り返ろうとする行動や考え方ができるように導くことを常に意識して実施したい。

3 授業実施上の工夫した点

- 教員の説明は導入部分以外、なるべく行わないようにするが、机間巡視の中で生徒の意見が活発となるような言葉かけを行う。
- 授業プリント（ワークシート）やICTを活用した教材作りを行うなど、生徒の活動時間をできる限り確保する。
- 評価の観点をおさえ、自己評価だけではなく、同じグループの生徒の評価も行わせることで、生徒同士が積極的な活動ができるようなきっかけを作る。

4 評価方法

○ワークシートの記入

教員の説明したポイントや教科書や話し合いの中で押さえたポイント等がおさえられているか
後で振り返った時に自分自身がわかりやすいワークシートになっているか
を評価のポイントとする。

○確認テスト

○評価シート（ワークシートの中に評価欄を設けている）

自己評価（話し合いに積極的に参加することができた、自分の考えをまとめ相手に伝えることができた等）

グループトーク評価（同じグループの生徒の評価を行う。積極的に話し合いに参加していたか、自分の考えを説明することができていたか、ワークシートの記入がわかりやすくていたか等）

5 研究協議のまとめ

- クラス人数や授業の習熟度等を考えて、生徒の実態に応じた手法で行う必要がある。
- 生徒の活動する時間を区切り、メリハリをつけさせるようにする。
- 意見を言い合える環境づくりが必要となる。グループ分けに工夫するなど話し合いがしやすい環境を作る必要がある。
- 商業の科目によっては、特性によりテーマに沿った授業展開が難しいと感じるものもあるが、教材や手法に工夫するなど可能であると感じた。
- 生徒自身が考える時間にグループ学習への行き詰まりを感じるなど、どうしても教員側のアドバイスが必要となる場合がある。状況によっては、生徒の言葉をひろいフォローする必要性もあるのではないか。

6 公開授業を終えて

以前は、教科書や授業プリントをもとに解説を行い、問題集での演習、小テストの実施や課題に取り組ませるといった教授型の授業を行っていた。今年度に入り資質・能力育成研究会の取り組みとして、「主体的・対話的で深い学び」をテーマとした授業実践を行うことが決まり、授業改善を試みるきっかけを与えていただいた。

授業にグループ学習を取り入れ始めた当初は、話し合いを行うことへの苦手意識を感じる生徒もいて、なかなか活発な活動が見られなかった。しかし、次第に話し合いを始め、教科書や問題集等を調べるなど、わからない人に教えるほど活発な活動ができるようになった。教員の力を必要としなくとも、ある程度の答えを自分たちの力で導くことができることや導入部分でしか見ることがなかった教科書を利用して答えを導こうとしている姿に成長を感じた。実際に生徒の声として一方的な教授型の授業よりも楽しいとの意見があがった。「主体的・対話的で深い学び」のテーマに沿った授業展開をどれだけ自分自身が行えているのか判断が難しいところではあるが、生徒の評価や授業への取り組み等を含めた生徒の成長度を感じることができているので、今までの教授型授業よりも効果は高いと実感することができた。